あとがき

「さあ、これからだ！」

トワニミライのフィナーレ。観客の拍手を聞きながら、私はそうつぶやいた。茨木市文化振興財団が森田かずよさんを招き、共生社会の構築を実現することを目標の一つに掲げたソーシャルアートとしての市民参加型ダンス公演制作の取り組みを始めて2年目が終わった。ダンス作品そのものについて、ダンス関係者から今年度は良い評価を受けることができた。共生社会の構築に向けての多様な参加者間の関係形成および場の構築という点では、前年の成果をより高めた感はあるが、新たな課題も見えてきた。全体としては、着実に成果を出しつつあると感じる。アート作品としての質を一定担保しつつ制作過程において社会課題の解決を目指すソーシャルアートは、「二兎を追う」活動である。文化政策の大転換期を迎えている茨木市において、どのようにすれば「二兎を追う」ことができるのか…… さあ、これからだ！

追手門学院大学地域創造学部准教授 草山太郎

「泣いたり、笑ったり。みんなでつくったダンス公演。」

3カ月にわたる稽古の中で、参加者が徐々に打ち解け、心を開き、ダンスを通して自分を解放する場面に何度も立ち会った。心が震える瞬間だ。

この感動を自分たちだけのものにしたくない。

そんな思いから、今年度は公演の記録を冊子としてまとめ、配布することにした。

「多様性」が叫ばれる昨今。

障害者による文化芸術活動の推進に関する法律の施行から5年がたったが、障害者を対象とした自主事業を実施している文化施設は、全国的にまだ少ないと言われている。実施するための知識のある人材がいないという理由で実施を躊躇する施設が多いようだ。

では、私たちに専門知識があったのか。恥ずかしながら答えはNOである。

森田さん、草山先生の肩を貸してもらいながら、試行錯誤の連続。

あの言い方は間違っていたのではないか、配慮に欠けていたのではないか、逆に配慮しすぎなのではないか、担当者間で何度も意見を交わした。後悔していることもある。

年齢、性別、障害の有無、そういった属性を超え、「多様な」人たちとどう向き合っていくか。まさに「みんなでつくる」ということの意味を私たち主催者自身も考え続けた2年間だった。

泣いたり、笑ったり。

みんなが一瞬でも心を解放し、自分を表現できる場をつくるにはどうすればよいか、走りながら考え続けたい。そして、また、そんな場面に担当者として立ち会い、共に心を震わせたい。

最後に、森田さん、草山先生をはじめ、関係者の方々、そして参加者の皆さんに御礼申し上げます。至らない点ばかりでしたが、あたたかく見守ってくださりありがとうございました。

（公財）茨木市文化振興財団 制作一同

「shape of my body」

2022年度　森田かずよソロダンス

出演

【一般公募】 あやのん、乾光男、入交夏帆、かな、神代千穂、河内千春、髙嶋華帆、髙嶋勇太、たかちゃん、sayosayo、田中敦子、谷裕美、寺本悠莉、中野美瑠希、原志緒里、モモネ、ゆか

【追手門学院大学】 3回生 あおい、あみ、あやか、かっさー、ここ、こと、たける、なつ、はる、まさちか、まほ、みほ、もも、ゆう、ゆうと、りな、りょうすけ、るり　4回生 あゆな、こうた、ともき